令和4年（2022年）度　学長賞

	表彰区分	所属	職名	氏名
1	教育活動	附属中学校	主幹教諭	坪内　道広
2	教育活動、研究活動、特許発明、共同研究	教育学部	教授	苅田　知則
3	教育活動，地域連携活動	農学研究科附属 柑橘産業イノベーションセンター	センター長（兼）、教授（兼）	山田　寿
			地域連携室長（兼）、教授（兼）	治多　伸介
			教授（兼）	上野　秀人
			〃	小林　範之
			〃	武山　絵美
			〃	小西　和彦
			〃	有馬　誠一
			〃	菅原　卓也
			〃	胡　柏
			〃	松岡　淳
			准教授（兼）	久米　崇
			〃	八丈野　孝
			〃	上加　裕子
			〃	高橋　憲子
			〃	椿　真一
			〃	山本　和博
			講師（兼）	森松　和也
4	教育活動、大学運営	理工学研究科	教授	森脇 亮
			〃	井原 栄治
			〃	黄木 景二
			〃	小林 千悟
			〃	二宮 崇
			〃	小原 敬士
			〃	松浦 真也
			〃	前原 常弘
			〃	井上 幹生
			〃	鍔本 武久
5	研究活動	教育学部	准教授	青木　亮人
6	研究活動	理工学研究科（理）	教授	佐藤　久子
7	研究活動	医学系研究科	特任講師	齋藤　卓
8	研究活動、大学運営	先端研究・学術推進機構 プロテオサイエンスセンター	センター長・拠点長（兼）、教授（兼）	澤崎　達也
9	地域連携活動	社会連携推進機構	教授	前田　眞
10	医療活動	医学部附属病院	救急部，感染制御部，看護部，薬剤部，診療支援部， ME機器センター	
		医学部	医事課，医療サービス課	
11	大学運営	地域レジリエンス学環設置準備室		
12	大学運営	医農融合公衆衛生学環		
13	大学運営	広報室	室長（兼）、教授（兼）	今村　健志
			副室長（兼）、准教授（兼）	徳田　明仁
			教授（兼）	小林　修
			准教授（兼）	中川　勝吾
			〃	仲道　雅輝
			講師（兼）	山田　朗
			助教（兼）	佐々木　隆志
			部長（兼）	和田　和敬
		総務部 広報課	課長	今岡　拓也
			サブリーダー	富永　真奈美
			〃	久保　陽子
			部員	小松　香織
			事務補佐員	藤村　紀子
14	大学運営	教育学生支援部 学生生活支援課	課長	武智　一正
			副課長	永井　剛

＊表彰区分順

令和４年度　学長賞

表彰区分	教育活動
所属・氏名・職名	附属中学校・坪内道広・主幹教諭（保健体育科・陸上競技部）

主な受賞

＜文部科学省関係＞

令和　３　年度　　文部科学大臣優秀教職員表彰
令和　４　年度　　全国学校体育研究優良校表彰

＜愛媛大学関係＞

令和　４　年度　　愛媛大学学長賞

＜部活動（陸上競技）関係＞

平成２４年度　　日本陸上競技連盟　中学校優秀指導者章
平成２６年度　　愛媛県体育協会　育成指導者部門　優秀スポーツ指導者賞
平成２６年度　　松山市体育協会　優秀指導者賞
平成２７年度　　愛媛県中学校体育連盟　優秀指導者賞
平成２８年度　　愛媛県体育協会　優秀選手指導部門　優秀スポーツ指導者賞
平成２８年度　　松山スポーツ笑顔大賞（松山市長表彰）
平成２９年度　　愛媛県中学校体育連盟　優秀指導者賞

＜陸上競技部生徒の受賞＞

平成２７年度　　愛媛大学学長賞〔生徒１名受賞〕
平成２８年度　　かがやき松山大賞（松山市長表彰）〔生徒１名受賞〕
平成２８年度　　愛顔のえひめ文化・スポーツ賞（県知事表彰）〔生徒１名受賞〕
平成２８年度　　松山スポーツ笑顔大賞（松山市長表彰）〔生徒２名受賞〕
令和　元　年度　　愛媛大学児童生徒等表彰（学長表彰）〔生徒４名受賞〕

平成２３年４月、保健体育科の教諭として教育学部附属中学校に赴任し、学級担任を３年、学年部長を５年、教務部長を１年歴任、令和２年４月から主幹教諭として学校運営に携わっています。その間、附属学校園で毎年開催される愛媛教育研究大会において、保健体育科の研究実践を全国に発信してきました。さらに、令和３年度には、全国学校体育研究大会の分科会会場校として、研究実践を公開しました。

著書としては、東洋館出版社の共同執筆として、書籍「イラストで見る全単元・全時間の授業のすべて 中学校３年 保健体育」の陸上競技（走り幅跳び）の領域を担当しました。

部活動では、陸上競技部の指導に携わっています。その業績は次のとおりです。

◇　松山市総合体育大会で男子８回、女子１１年連続の総合優勝。
◇　愛媛県総合体育大会および四国総合体育大会に毎年多数の選手を輩出。個人優勝や入賞、総合優勝を果たす。
◇　ジュニアオリンピック陸上競技大会に毎年選手を輩出。多くの全国入賞を果たす。
◇　国民体育大会２大会に３名の選手を輩出し、入賞を果たす。
◇　全国総合体育大会６大会に延べ３０名の選手を輩出。平成２８年度には全国優勝を果たす。
◇　２０大会３０種目で大会新記録、４種目で愛媛県中学新記録、２種目で四国中学新記録を樹立。

本校陸上競技部での活躍を夢見て、本校への進学を希望する児童が増えるなど、これらの軌跡は、附属中学校陸上競技部の良き伝統となり、しっかりとバトンが受け継がれています。

令和４年度　学長賞

表彰区分	**教育活動、研究活動、特許発明、共同研究**
所属・氏名・職名	**教育学部・苅田知則** **教授/教育学部附属インクルーシブ教育センター長**

特別支援心理学の立場から、インクルーシブ教育・共生社会の実現に寄与する事業、研究プロジェクト（http://treasure.ed.ehime-u.ac.jp/）を主導している。令和３年度には教育学部附属インクルーシブ教育センターが新設され、同センター長を兼務している。

インクルーシブ教育システム・共生社会の実現に向けた取組の例

１）遠隔学習支援システム「志」の開発

概算要求による本学の基盤的設備等として、①障害・病気等により多様な学習上の困難がある学生/受講者に対応するアクセシビリティ機能、②生体認証機能等によりセキュアに本人を認証する機能を搭載した、新しい遠隔学習支援システム「志」を開発した。

開発においては、障害当事者や支援者のニーズを取り入れ、音声読み上げ、字幕による情報保障、視線入力装置等の外部装置を用いて操作しやすいユーザーインタフェース等、他の学習管理システム（Learning Management System: LMS）よりもアクセシビリティ機能を強化している。障害・病気等の事由により通学が困難な人も、生涯にわたって学び続けることができる仕組みづくりに寄与する。

２）バリアフリーな教科書・教材、支援機器（Assistive Technology: AT）の開発・提供

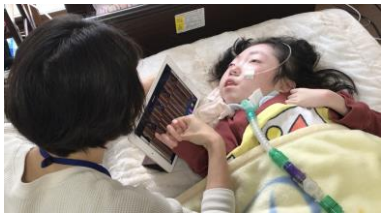
・**愛媛大学版音声教材 UNLOCK**：文部科学省等から事業を受託し、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けて、文字を音声化した音声教材を作成・提供している。

・**文部科学省著作教科書のデジタル活用**：特別支援学校等に在籍する知的障害児等を対象とした文部科学省著作教科書のデジタル活用を推進するため、障害特性を考慮した機能を搭載した教材表示アプリを開発した。令和３年度からは、アクセシビリティ機能を搭載した「志」を用いたデータ配信、教育現場での利活用を試行している。

・**支援機器（AT）の開発**：①声量の自己制御が困難な発達障害等のある人に、声量を視覚化してフィードバックする装置・アプリ（声のものさし・ボイスルーラー，右図）、②発話が困難な人（知的障害、脳性まひ等）が、場所・場面に応じて意思を伝達するための会話補助装置（GPS-VOCA, Friendly-VOCA）、重篤なために発話やジェスチャーによって欲求（意図）を表出できない障害児者等の欲求を推測して、録音音声の再生・電子機器の操作を行う欲求推測・代行システムの開発を継続している。特許・実用新案等を取得し、一部は技術移転先から市販化されている。

３）障害者の生涯学習の推進

文部科学省や文化庁の受託事業を基盤とし、重度重複障害児者の生涯にわたる学びの場作りとして「訪問カレッジ（訪問教育の生涯学習版，右図）」、障害者の生涯学習推進を図るコンファレンス「まるのつどい」を実施している。



令和４年度　学長賞

表彰区分	教育活動、地域連携活動
所属・氏名・職名	農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター 「柑橘産業人材育成プログラム」担当グループ 山田　寿　センター長　他 16 名

農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンターは、平成 30 年 7 月の豪雨災害で愛媛県の柑橘産業が甚大な被害を受けたことを契機として、県内のステークホルダー等からの要望を受けて平成 30 年 12 月に開設された。本センターは、農学研究科が培ってきた基礎研究のシーズを生かして愛媛県の柑橘産業の復旧・復興と将来の発展に貢献することを目的として、豪雨災害直後からの被災園地の被害調査や復旧に向けた自治体等の委員会委員、宇和島市からの受託研究、南予サテライトの開設、柑橘シンポジウム（2019、2021、2022 年）など、様々な活動を実施しており、柑橘産業のステークホルダーや地域社会等から大きな注目と期待を集めているところである。

また、柑橘産業の発展のためには将来を担う人材育成が不可欠との認識から、本センターでは地域連携室長の治多教授を中心にリカレントプログラムの開発を進めてきた。その結果、2021 年度に 60 時間の履修証明プログラムとしての「柑橘産業人材育成プログラム」の開設・実施に漕ぎ着けた。受講生の募集開始後、県内外から多くの問合せや応募があり、早期に定員 30 人を超える 33 人に達して募集を締め切るなど社会からの大きな関心と期待を裏付ける結果となった。本プログラムは、愛媛県の柑橘農業及び柑橘の加工、流通を含む幅広い関連産業の振興に資する能力を有する人材を育成することを目的としており、これは第３期中期目標期間における愛媛大学のビジョン（戦略１「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」及び戦略２「地域産業イノベーションを創出する機能の強化」）の達成にも大きく貢献している。

本プログラムは、３つのステージで構成されており、第１ステージでは中国四国農政局や愛媛県の担当者による柑橘産業の全体像や愛媛県の特徴を講義いただくとともに、第３ステージでは国や県、市町村、JA、企業等の外部講師の協力による先端技術の見学や就農に係わる支援制度等を解説いただき、地域のステークホルダーとの連携を図っている。また、第２ステージでは、センターに所属する 17 名の教員が柑橘の栽培から加工、流通、経営等に関わる幅広い分野の科学的基礎知識をそれぞれの専門性を生かして教授した。本プログラムは基礎知識が多様な社会人を対象とした柑橘産業に特化した内容であるため、各教員は通常の講義とは異なる様々な工夫を凝らして新たな資料の収集・作成を行うとともに、休日に実施されたコロナ感染対策のための遠隔講義に臨んだ。各教員の努力の結果、受講生の積極的参加と極めて高い評価を得、23 人に「愛媛大学柑橘産業イノベーター」の称号を授与できた。さらに、今年度修士課程（社会人特別コース）に１名の入学生も出ている。

なお、今年度は、愛媛県みかん研究所と連携して、柑橘栽培上の重要管理作業である「摘果」と「剪定」実習を新規導入するなど、プログラムのバージョンアップを図りながら継続実施している。

令和４年度　学長賞

表彰区分	教育活動、大学運営
所属・氏名・職名	大学院理工学研究科 森脇　亮・教授、井原　栄治・教授、黄木　景二・教授、 小林　千悟・教授、二宮　崇・教授、 小原　敬士・教授、松浦　真也・教授、前原　常弘・教授、 井上　幹生・教授、鍔本　武久・教授

大学院理工学研究科は、令和 5 年（2023 年）度に改組を実施し、VUCA 時代に求められる柔軟で適応力が高い理工系人材の育成、 SDGs、カーボンニュートラル、GX、DX、産業活性化など、地域・社会の諸課題に取り組む「地域にある知の拠点」となる新しい理工学研究科としてスタートする。

新研究科では､博士前期課程･後期課程とも従来の 5 専攻から理工学専攻の 1 専攻とし、「理工学分野における高度な知識・専門技能」･「学識・論理的思考力・俯瞰的視野に基づく課題探求力・解決力」･「高い教養と学識からなる豊かな人間力・発信力」を涵養し、「柔軟な思考と高い適応力のもと、変貌する社会と地球環境を見据え、今日の科学・技術を継承し発展させるのみならず、未来のために新たな価値の創造・実現に貢献できる理工系人材」を育成する教育を行うための学位プログラムとカリキュラムを整備した。

博士前期課程では、理工学専攻の下に 4 基盤プログラムを置き、分野横断型の学修も可能となるように、複数分野を包含する各基盤プログラムにおいて、学修する専門科目・研究対象を学生が自由に選択できる柔軟でオープンなカリキュラムを整えた。また、アジア周辺地域の自然災害の減災・防災活動を担うことができる技術者を養成する留学生対象のアジア防災学特別プログラム、将来の愛媛周辺地域産業を支える高度技術者を養成する地域エンジニア養成プログラムの 2 特別プログラムを設置した。

博士後期課程では、学位（博士）を持つ研究者・技術者に求められているトランスファラブル・スキルの醸成を促す科目群を有する新カリキュラム、EU アドバンストフェローシップ制度など、学位取得を目指す学生の修学をサポートし、研究科の充実した研究プラットフォームの下で専門能力と俯瞰的能力を兼ね備えた人材を育成する体制を整えた。

本学中期計画に沿った本改組の実施にあたり、理工学研究科では、令和 2 年度から新研究科の設置準備に着手、令和 3 年度に大学院理工学研究科改組ワーキンググループにおいて新研究科の構成・ポリシー（AP/CP/DP）・カリキュラムと修了要件・入試制度など設置計画の基盤となる具体的要項を組み立て、大学院改組設置準備室において設置審査資料を完成させた。表彰者らは、構想の段階から新研究科の準備に携わり、改組計画の策定、設置審査資料の作成、それに伴う研究科内の調整など、種々の実務に献身的に貢献し、顕著な業績をあげた。

令和４年度　学長賞

表彰区分	研究活動
所属・氏名・職名	教育学部・青木　亮人・准教授

■令和３年度「研究活動・著作」の主な業績

◆学術論文

・学術誌「日本文学」:「俳句そのものを読むということ　「と」を中心に」

・子規記念博物館の機関誌「子規博だより」:「「只言」と「写生」の間　三森幹雄の俳諧観から正岡子規派の句を見る」

◆連載評論１：商業誌、総合俳句雑誌

・「NHK 俳句」月刊：「タイムトラベル　俳句の歴史」連載中

・「俳句界」月刊：「句の面影、逸話のさざめき」連載中

・「俳句四季」月刊：「句の手触り、俳人の響き」連載中

・「100 年俳句計画」月刊：「近代俳句史超入門」連載中

・「子規新報」隔月刊：「時のうつろい、句の響き」連載中

◆連載評論２：俳句結社誌、海外

・「氷室」月刊：「季節と追憶」連載中

・「円座」隔月刊：「俳句エッセイ」連載中

・「ボストン日本人会会報」年３回、連載中

◆単発評論

『新編山頭火全集』４巻月報、『文藝年鑑』（新潮社）「俳句文学館」（俳人協会）「文化愛媛」（愛媛県文化振興財団）「俳壇」（本阿弥書店）「俳句」「俳句年鑑」（以上、角川書店）「図書新聞」（図書新聞社）「へんろ」（伊予鉄不動産）「櫟」（俳句結社誌）「デュッセルドルフ日本人会会報」に単発評論を掲載

■令和３年度「制作・活動」の主な業績

◆定期講演、講座

・国内

エフエムいたみのラジオ番組「ことばの花束」定期出演、愛媛県文雅振興財団による対面講座「愛媛俳句・文学講座」、オンライン講座「俳句史講座」の定期市民講座の他、大垣市教育委員会による「おおがき芭蕉大学」、また三重大学の留学生授業でオンライン講演を行った。

・海外

ドイツのミュンヘン&アウグスブルク合同句会主催によるオンラインセミナーに定期出演し、日独協会等で内容が紹介された。及び、ドイツの日本文化愛好者による「日本語で話す会」のオンラインセミナーも複数回担当した。

他、大学機関としてはアメリカのオクラホマ州立大学、ユタ・バレー大が宇、ルイス&クラーク大学、カラマズー大学、ダートマス大学、ワシントン大学、ウィリアム&メアリー大学、またドイツのデュッセルドルフ大学にてオンライン特別講演を行った。

◆愛媛各地域との連携

・第 37 回富澤赤黄男顕彰俳句大会選者、選句及び選評（八幡浜市教育委員会）

・第 68 回芝不器男忌記念俳句大会選者、（松野町教育委員会）

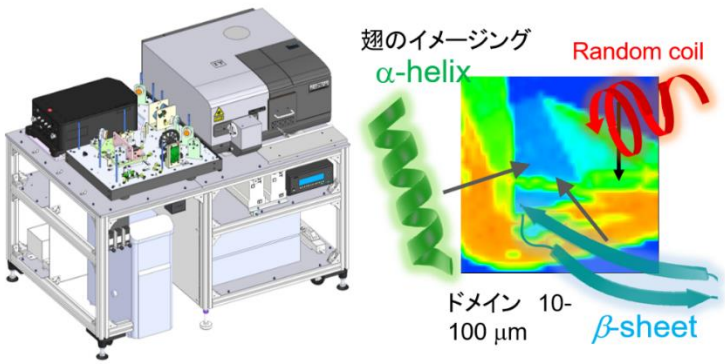
・松野町「俳句の径」の芝不器男句碑、音声解説（松野町教育委員会）

令和４年度　学長賞

表彰区分	研究活動
所属・氏名・職名	理工学研究科（理）・佐藤　久子・教授

右手左手の関係のような分子不斉（キラリティ）の研究が私のテーマです。ここ数年ゲルや分子結晶にみられるような多数の分子が連結することによって現れる不斉構造（“超分子キラリティ”と呼んでいます）に着目し、その解明のためのキラル分光学法の開発を行ってきました。中でも赤外領域のキラリティを調べる赤外円二色性分光法(VCD)に着目しています。2021 年の顕著な成果としては顕微機能を備えた VCD 装置を新たに開発したことです[1]。高輝度の赤外光を発する量子カスケードレーザーを用いて空間分解能 100 μm を達成しました。従来の波数軸に時間軸と空間軸を加えた多次元赤外円二色性分光法を提唱しています。これまで測定が困難であった高吸収物質や生体試料のその場観察などに応用しています。例えば、生体試料として昆虫翅に適用した結果、大きさ 10-100 μm の各部位（翅膜、翅脈等）ごとに種々の高次構造（コイル、β-シート、α-ヘリックス等）のタンパク質ドメインの分布を見出しました[2]。この結果は、生物が単一器官でいくつかの機能を同時に果たすという性質(多機能性)の解明へのヒントになると考えています。

また、立体選択的な分子間相互作用による VCD シグナルの顕著な増強を見出し、キラル分子の会合構造について独自の観点からの研究を遂行しています（日本化学会の BCSJ 賞（2021 年 6 月）を受賞[3]）。その他、博士課程の学生が学位取得後 2022 年度から北里大学理学部の助教に採用され、若手研究者の育成に寄与することができました[4]。このように物理化学、機能物性化学分野の研究進展を行っているところです。



多次元赤外円二色性分光法の開発による昆虫翅の高次構造分布

業績例

［1］H. Sato *et al.*, *Anal. Chem.* **2021**, 93, 2742-2748（ストックサイト掲載）.
［2］H. Sato *et al.*, *J. Phys. Chem. Lett.* **2021**, 12, 7733-7737（ストックサイト掲載）.
［3］H. Sato *et al.*, *Bull. Chem. Soc. Jpn.* **2021**, 94, 1731-1736（BCSJ 賞）.
［4］K. Takimoto *et al.*, *Dalton Trans.***2021**, 50, 13256-13263 (backcover).

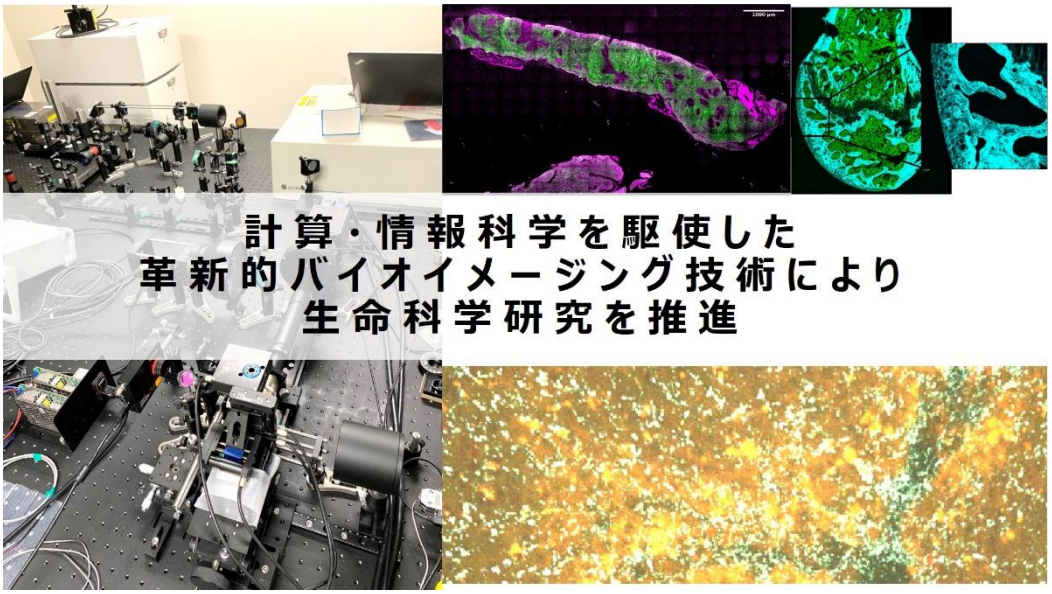
令和４年度　学長賞

表彰区分	研究活動
所属・氏名・職名	医学系研究科・齋藤　卓・特任講師

計算・情報科学を駆使したバイオイメージング技術開発と異分野融合研究

齋藤は、計算・情報科学を利用した先進的バイオイメージング技術をベースに異分野融合研究を主導し研究成果を創出してきた。最先端の顕微鏡である多光子励起顕微鏡と機械学習を利用した変形性関節症の診断法の開発（Saitou, ***Sci Rep*** 2018）、肝炎組織（Saitou, ***Front Med*** 2018）の診断法の開発や深層学習を利用したヒト乳腺腫瘤の診断法の開発（Taguchi, Saitou, ***Molecules*** 2022）に成功するなどイメージングから情報学的に生物形態・病態の変化を捉え診断技術に繋げる研究を行ってきた。また、多光子励起イメージング技術を発展させ、生物の長期ライブイメージングを可能にする画期的２光子励起ライトシート蛍光顕微鏡の開発に成功した（Takanezawa, Saitou, ***Nat Commun*** 2021）。

バイオイメージングは、 生体内部における分子の構造・局在や機能を画像として可視化する技術で現代の生命科学研究にとっての基盤技術であり、光学・電子機械工学・情報科学などを含む多様な分野を統合した学際的研究が今後ますます重要となると考えられ、齋藤はその中心としての活躍が期待される。



令和４年度　学長賞

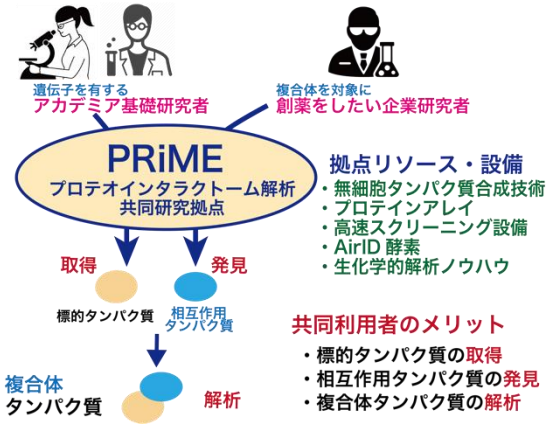
表彰区分	研究活動、大学運営
所属・氏名・職名	先端研究・学術推進機構　プロテオサイエンスセンター 澤崎達也　センター長/拠点長/教授

タンパク質は、生物すべての生命現象を担う基本分子です。そのため長年、プロテオサイエンスセンターは、タンパク質を対象に研究を進めてきました。ヒトなどの高等生物のタンパク質は単体で機能することは殆ど無く、生体内において他のタンパク質と複合体として協働しています。そのため、個別のタンパク質機能の解明に加えてタンパク質複合体ネットワーク（プロテオインタラクトーム）の解明が、生命科学の最重要研究課題といえます。プロテオインタラクトームは、タンパク質を単体で機能する分子として捉えてきたこれまでの概念に対し、複数種類のタンパク質からなる“タンパク質複合体”を機能単位として捉えて研究することを提案しております。そして、タンパク質複合体により惹起される生命現象の理解を深め、さらにそれらの新知見により新たな創薬標的を模索する時流の要請から生まれた概念であります。

PRiME のロゴ

その様な状況の中で、プロテオサイエンスセンターが設置する愛媛大学プロテオインタラクトーム解析共同研究拠点　PRiME（プライム）は、第 4 期中期目標期間（令和 4 年度～令和 9 年度）における「共同利用・共同研究拠点」として文部科学大臣より新規認定されました。PRiME は、基礎生物学から医歯薬学さらには農学に及ぶ生命科学の幅広い分野において不可欠なタンパク質相互作用の実態を、生化学的解析および生体内解析の双方から網羅的に明らかにするプロテオインタラクトーム解析の中核的拠点です。我が国の生命科学研究の発展への寄与を目的として、独自の無細胞タンパク質合成技術とタンパク質相互作用の解析技術等を用いた共同利用・共同研究を推進しています。また、社会実装に向けた新規薬剤や新規診断手法の開発等、多数の企業との活発な共同研究を展開しています。　拠点認定を受けた今後、国内外の大学や研究機関、バイオ企業との共同研究機能をさらに強化するとともに、将来を担う若手研究者の育成や国際化に貢献し、研究成果を迅速に社会配信・実装することができる拠点として、我が国のプロテオインタラクトーム解析を牽引します。

PRiME の独自技術



PRiME の概要

令和４年度　学長賞

表彰区分	地域連携活動における顕著な功績
所属・氏名・職名	社会連携推進機構・前田　眞・教授

活動のエビデンス
講演会（主なもの）
　佐賀県佐賀市勧興公民館（20210213)、東温市立北吉井小学校（20210308)、
　福岡県古賀市花鶴小学校（20210309)、愛南町社会福祉協議会（20210611）
　福岡県福岡市花畑小学校（20210618)、愛媛県立松山東高校（20210621）
　連合愛媛地域フォーラム(20210703）、
　一般社団法人マスコミ倫理懇談会全国協議会フォーラム(20210708)、
　済美高校(20210727)、
　伊方町人権委員研修会三崎地区(20210802)・伊方地区（20210804)・瀬戸地区(20210805)、
　愛媛大学教育学部シトラス REBORN プロジェクト(20210824)
　ガールスカウト中国四国指導者研修会(20210831)、愛媛県立松山南高校(20211119)
　久万高原町立美川中学校（20211123)、四国中央市ボランティア研修会(20211130)
連携事業：自治体関係（主なもの）
愛媛県
　キャンペーン用オリジナルみきゃんデザインの作成、デザインを使用したのぼり、シール、ポスター等啓発物品の作成、シトラスリボンプロジェクトの活動を紹介するパネル展の開催などで連携
市町村
　県内の市町のみならず大阪市、福井市など県外の多くの市町村
　職員の方々がシトラスリボンをつけていただいたり、独自の缶バッジ等を作成していただいたりして、啓発に努めていただきました。
企業関係（主なもの）
らくれん（四国乳業）
　牛乳のパッケージにシトラスリボンを印刷し、啓発に努めるとともに、売り上げの一部を四国四県に寄付されました。
愛媛県トラック協会
　広報用ラッピングトラックを制作するなど、周知啓発活動に取り組んでおられます。
市民団体など
シトラスリボン from 四国中央市
　シトラスリボンをイメージした曲づくりや俳句の募集など周知啓発活動に取り組まれています。
学校関係（主なもの）
重信中学校
　重信中学校のボランティア団体「T-ボラン」から、愛媛大学医学部付属病院医療従事者に向けて手作りによるシトラスリボンストラップ約５０個を提供しました。
平野中学校
　人権委員会を中心に『シトラスリボンプロジェクト』に取り組んでいます。

松山南高等学校
　本校保健委員有志 2 名がクリスマスにカードとともにシトラスリボンを女王陛下に贈呈、女王からお礼状をいただきました。
表彰
　愛媛新聞賞を受賞しました。

令和４年度　学長賞

表彰区分	医療活動
所属・氏名・職名	救急部，感染制御部，看護部，薬剤部，診療支援部，ME 機器センター，医事課，医療サービス課

医学部附属病院では、新型コロナウイルス感染症の重症患者用を受け入れるため、ICU2 病床をコロナ専用病床として確保し、県内の医療機関等と連携しながら、多くの重症患者の治療に貢献してきた。

新型コロナ患者の治療にあたり、特に貢献のあった部署の業績は以下のとおりである。

【救急部】

・新型コロナウイルス重症患者の治療に貢献した。
・基礎疾患が重症な新型コロナウイルス陽性患者の対応に貢献した。
・県内における重症病床の拡大、後方支援病院の確保等に尽力した。

【感染制御部】

・院内の感染防止対策の方針の決定・実施等及び現場での感染防止の実施（PPE の着脱訓練等）に貢献した。
・県内の軽症者宿泊療養施設の運営・管理に貢献した。
・医療従事者及び職域接種等におけるワクチン優先接種に貢献した。
・院内の新型コロナウイルス感染拡大時、影響を最小限に留めることに貢献した。

【看護部】

・新型コロナウイルス重症患者の治療に貢献した。
・新型コロナウイルス専用病床（ICU2）における看護体制の維持に貢献した。
・入院患者や職員における新型コロナウイルス感染拡大時に病棟全体の看護体制の維持に貢献した。

【薬剤部】

・新型コロナウイルス感染症重症患者の治療に必要な薬剤（レムデシビル等）の管理、処方に貢献した。
・ワクチンの受取、搬送、管理、接種業務に貢献した。

【診療支援部】

・新型コロナウイルス感染症患者等に対する PCR 検査・抗原検査、CT 検査、X 線撮影等の実施に貢献した。

【ME 機器センター】

・新型コロナウイルス感染症の治療に必要な人工呼吸器・ECMO 等の保守等に貢献した。

【医事課・医療サービス課】

・病院における新型コロナウイルス感染対策の実施及び患者対応に貢献した。
・ワクチンの受取、搬送、管理、接種業務に貢献した。
・入院患者や職員の新型コロナウイルス感染拡大時に全面的な業務支援を行い、貢献した。

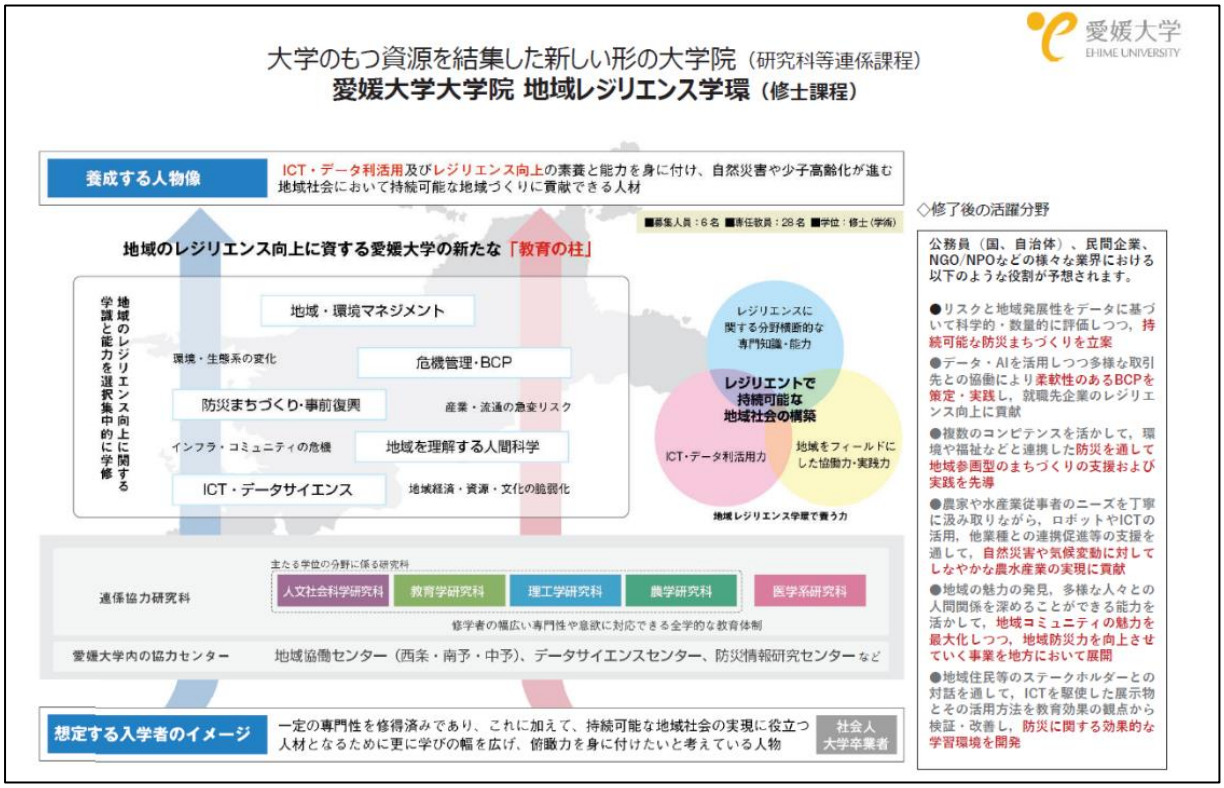
令和４年度　学長賞

表彰区分	大学運営
所属・氏名・職名	地域レジリエンス学環設置準備室

文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査等を経て、設置することが認められた『地域レジリエンス学環』は、令和４年４月に設置した「医農融合公衆衛生学環」に続き、２つ目の学環となります。

本学環では、既存の学問分野を横断的、複合的に学び、幅広い領域の「レジリエンス」に関わる実践的能力を身に付けるための教育を実現します。これにより、専門枠や実務・学術領域を超えて、人と人、知と知をつなぎ、「自然」「インフラ」「産業」「歴史」「文化」「コミュニティ」からなる地域資源を育みながら、持続の可能性を見据えて課題解決できる人材を育成して地域の幅広い分野へ輩出し、自然災害や少子高齢化等の急激な社会情勢の変化に対し、地域社会を存続させる力の向上、すなわち「地域のレジリエンス向上」に寄与することを目的とします。

本学環は、文部科学省が省令で定める「研究科等連係課程制度」を活用して、本学の人文社会科学研究科、教育学研究科、理工学研究科、農学研究科、医学系研究科の５研究科の協力により設置するもので、本学環設置準備室は、発足以前から、学内外での交渉や調整、自治体や企業などの関係ステークホルダーからの要望の取りまとめなど、長期間に渡って検討を行ってきました。現在は令和５年４月の開設に向けて、入学者選抜、教育課程等の詳細な検討を続けています。本学環設置準備室構成員の尽力によって、今後、本学の地域貢献の方法を具現化した人材育成が期待されています。



令和４年度　学長賞

表彰区分	大学運営
所属・氏名・職名	医農融合公衆衛生学環設置準備室 山下　政克　医農融合公衆衛生学環長 山内　聡　医農融合公衆衛生学環副学環長 三宅　吉博　教授　（医学系研究科） 岸田　太郎　教授　（農学研究科） 菅原　卓也　教授　（農学研究科）　ほか

令和4年4月1日　医農融合公衆衛生学環を設置

文部科学省が法令で定める「研究科等連携課程制度」を活用して、医学系研究科が持つ疫学、保険医療管理学、ヘルスデータサイエンスの知識と技術に関する強み、さらに、農学研究科が持つ環境汚染物質の測定や食品機能性評価の技術、食品衛生の知識と技術に関する強みの双方を活かした、医農融合による公衆衛生学教育を実現する全国初の医農融合による公衆衛生大学院修士課程（学位：修士（公衆衛生学））を、**令和４年４月１日設置**しました。

地域協働センター、医農融合公衆衛生学環、先端医療創生センターを核とした「えひめ地域健康プラットフォーム」の構築

地域からの診療データや検診データ、介護データ、食品中の健康機能性成分の解析データなどをビックデータとして、医農融合公衆衛生学環に提供し、地域ニーズや地域資源とマッチングさせることにより、地域課題の解決支援や健康産業支援を行い、地域全体で健康課題を解決するための「えひめ地域健康プラットフォーム」を構築します。

令和４年度　学長賞

表彰区分	大学運営
所属・氏名・職名	広報室・今村　健志・室長　他１２人

本年4月、教育、研究、地域貢献、国際交流、健康医療などの幅広い分野において、学生・留学生・教職員・地域ステークホルダーなどの全ての関係者が「集い、考え、学び、応える」イノベーション拠点として、「E.U. Regional Commons（愛称:「ひめテラス」）が完成した。

外観

学生が集う地域交流スクエア（1 階）

メディアフロント（2 階）での撮影・収録風景

地域サステナビリティスペース(3 階)での会議

広報室及び広報課では、ひめテラスが地域における知の拠点として、『第二の正門』として、地域と愛媛大学をつなぐ多機能かつシンボリックな機能を果たせるよう、その利用方法、将来計画、イベント開催、デジタルコンテンツ制作など様々なプロジェクトチームを立ち上げ、多彩な情報発信を企画・実践し、大学広報の発展に貢献している。特に、ひめテラスに学生のみならず地域のステークホルダーを呼び込むためのイベントの企画や、学生と共に創るデジタルコンテンツやコミュニケーションツールの開発など、ひめテラスを通じた大学広報の新たな展開に挑戦している。

また、公式ウェブサイトのリニューアルや学生が大学広報の一端を担う制度「学生広報アンバサダー及び学生コミュニケーター」を確立し、各プロジェクトチームの教員らによるフォロー体制を整備するなど、常に新しい視点や手法を取り入れた情報発信を実践している。

学生広報アンバサダーとのミーティング風景→